



# 全教北九州

新聞 全教北九州  
全教北九州市教職員組合  
発行責任者 中川喜久子  
2021.5.31

全教北九州 検索 「2021春闘」特集 この新聞はすべての教職員に配布しています

## 教職員の労働条件改善・拡充、教育条件整備を

名ばかりの「働き方改革」はいろいろな

### 2021年度春闘要求書提出

3月31日、全教北九州市教職員組合（全教北九州）は、教育委員会に対し劣悪な教職員の賃金や休暇制度などの労働条件の改善・充実、教育条件整備、民主的教育の確立など教職員と子どもたちのためになる「働き方改革」を求めて2021年度の春闘要求書を提出しました。要求書に基づき交渉を6月に行います。

#### 中学校でも早期に少人数学級実現を求める

北九州市は、組合や市民運動が長年にわたって要求してきた少人数学級について、2021年度から小学校全学年で35人以下学級を実施することを決めました。段階的に実施する国の方針を上回る方針を全教北九州は歓迎しています。少人数学級は子どもたちにゆきどついた教育を実現するため必要です。また、教員にとっても労働時間削減などのメリットもあります。

一方、中学校の少人数学級は今回実施されませんでした。「働き方改革」が叫ばれるなか、中学校でも早期に実施すべきです。全教北九州は、中学校の全学年で少人数学級実現を求めています。

#### 仕事に見合った賃金を求める

教職員の賃金の改善も要求します。総務省『給与・定員等の調査結果等』によると、北九州市の月額平均給与は都道府県・政令市の中で最下位でした。平均年齢が近い

福岡県の教員とは月額2万円近い格差があります。

給与等の待遇は教員志願者数とも関係します。子どもたちの教育に奔走する教員の給与等の待遇は適正とは言えません。交渉では、給与・ボーナスの改善を求めるとともに、成果主義賃金制度の拡大にも強く反対します。

#### 長時間過密労働解消を求める

「働き方改革」に関しては、長時間過密労働の解消を求めます。法律で定められた45分の休憩時間が取れない仕組みになっているのは違法です。「働き方改革」の障害となつている事象について具体例を提示し早急な改善を求めます。

#### 学校施設・設備の事故防止を

再発防止を要請

全教北九州では、市内中学校でのバスケットボール落下で生徒が負傷した事故、宮城県での防球ネット支柱倒壊で児童が死亡した事故を受けて、5月12日に事故再発防止に関する要請書を提出しました。

#### 円滑なワクチン接種のために

接種環境づくりを求める要請書提出

5月19日、全教北九州は、教職員へのワクチン接種が円滑に実施されるための環境づくりを求める要請書を教育委員会に提出しました。

全国的で学校でのクラスターが発生していることから、優先接種や希望する教職員のPCR検査を行うよう求めています。

ワクチン接種は、会場への移動、問診、接種後の経過観察など半日程度必要ともいわれています。ワクチン接種は本人の希望を優先するとともに、接種のための休暇制度を追加するよう求めています。

副反応により勤務できない場合は、安心して休暇が取得できるようにすること、授業に支障が出ないように職場の体制を整えることを求めています。

家族の副反応により介護が必要となった場合は、すでに介護休暇を取得している場合を考慮し、通常の介護休暇とは別枠の休暇とするよう求めています。

#### 防空監視哨 (小倉北区)

#### 北九州の戦争遺跡



防空監視哨は、防空体制のひとつとして、軍の施設やビルの上等に、航空機の侵入を発見し動向を監視するために設けられました。大手町公園に現存する監視哨は、小倉陸軍造兵廠第一施工場にあつた防空監視哨の先端部分です。隣には造兵廠給水塔のレプリカ(6分の1サイズ)もあります。このレプリカは、給水塔の解体に反対する市民運動により設置されることになったものです。

魚町銀天街のワシントンビル屋上の監視哨は一般公開されていません。

# 経済格差は教育格差につながる

## 第93回北九州統一メーデー集会での全教北九州の発言要旨

5月1日勝山公園で第93回北九州統一メーデーが開催されました。昨年は新型コロナウイルス感染症のため中止しましたので、2年ぶりの開催となりました。

全教北九州からは、北九州市の少人数学級の実施とGIGAスクール構想の2点を中心とした教育問題について発言を行いました。

メーデー集会には50団体から450人が参加しました。永富実行委員長よりメーデーの起源等の話の後、最低賃金を上げて雇用を創出、大企業の内部留保を吐き出させ労働者の賃上げの実現を目指す等の意見表明を行いました。

集会では、全教北九州を代表して中川書記長が少人数学級の実施とGIGAスクール構想の2点を中心に北九州市の教育問題について発言しました。



発言する中川書記長

北九州市では国に先駆け、今年度より小学校全学年で35人学級が実施されることを報告。また、今回の義務教育標準法の改正を歓迎しつつも、中学校や高等学校への拡大、教員不足等の解決に向けて運動を行う決意を表明しました。

コロナ禍で実施が進んでいるGIGAスクール構想については、拙速なタブレット導入が現場に混乱をもたらしていることを報告しました。ICT活用の可能性を否定しないものの、授業方法の画一化や、理科の実験などの体験や操作という発達の基盤になる学習活動の減少、子どもの視力低下などの健康被害、家庭でのWiFi環境整備など保護者への経済的負担、などの疑問点を報告しました。

最後に、学校は社会の縮図であり、親の経済格差が教育格差につながることを指摘し、市民と共に運動を進めていく決意を表明しました。

## 集まる・つながる・広げる

### 全教北九州 定期大会をオンラインで開催

全教北九州市教職員組合は、5月22日(土)に定期大会をオンライン形式で開催しました。メーリングリストやオンラインでの交流会による職場からの発言をまとめました。

#### ICTについて

▼自己申告にICT活用を明記。年配層には負担感が。▼タブレット整備で担当者に大きな負担。ICTに詳しい職員がいない職場は悲惨な状況になっている。

#### Teamsの接続

▼Teamsの接続に時間をとられた。それよりも楽しい授業をしたい。

#### Teamsの接続テストで、接続環境があっても思うように繋がらない人、最後まで繋がらない人がいた。まだまだ課題が多い。

▼研究授業でタブレットを使う内容を強要される。負担や疲労が増すばかり。

▼コロナ禍の中、生徒総会や保護者が参加できなくなった進路説明会などにICTを利用して。こういう使い方は良いと思う。

#### 特別支援教育について

▼初めて特別支援学級の担任に

なり、8人という定数は無理だと思う。通常級の40人よりもっと大変。学年が全学年にまたがるとさらに大変。定数を減らしてほしい。

#### 専科授業について

▼小規模校だが、教職員が半分入れ替わり、昨年はいた専科担当もおらず誰かが休んだ時の補充もできない。専科がゼロの学校もあれば、二教科も専科授業がある学校もある。この違いはどこから来るのか?この学校でも同じように専科授業を受けられるようにしてほしい。

▼英語の専科をしている。英語の授業はこの学校でも専科授業が受けられるといいと思う。小学校と中学校で英語に関しての情報交換をしたい。

#### 学校事務について

▼事務補助が剥がされ、学校事務職員の業務の負担がすごい。専任など体調にも影響が出ている。事務補助を剥がす制度は「業務改善」に反している。

#### 学校のコンプレックス

▼学校統廃合の対象校。22年の4月に開校予定だが、未だに校舎も決定していない。「最後の一年」のはずなのに、子ども達や教職員は蚊帳の外。

▼自己申告の提出の期限を管理職が「チェックしたいから」と

いう理由で早める提案。職員を信頼していない。

#### 組合活動について

▼事務職員の業務変更で危機感を感じて組合に入った。事務職員のような一人職種の方に声をかけていこう。

▼他の組合との交流でコロナ禍の学校現場の現状を話す機会があった。学校は社会の縮図なので、学校外の人たちと交流することは大事だと思った。

▼女性部は少人数でも集まる活動を続けている。何か手作業をしながらの交流。気軽に参加してほしい。

▼職員会議で発言したことがきっかけで、職場の人が組合加入してくれた。思いは一緒。

▼全教の青年部総会に参加した。校内の課題に対し、他の組合に入っている人と一緒に要求を出した活動に感銘を受けた。

▼初めて組合員として交流会に参加し、悩みに対していろいろアドバイスしてもらった。あったかいつながりを感じて嬉しかった。

## あなたも全教北九州へ



組合加入はこちらから